

令和2年度 飯塚市事務事業評価シート

令和 3 年 5 月 27 日 作成

事務事業名	認知症高齢者等個人賠償責任保険事業	外部評価の状況	事務事業No.	331 - 43
		なし		

1. 基本情報						
担当部	担当課	担当係	作成者職名	作成者氏名	所属長職名	所属長氏名
福祉部	高齢介護課	高齢者支援係	主任	原中 ひとみ	課長	今泉 正虎
施策体系	総合計画	政策	3	健幸・子育て		
		施策	3	高齢者が安心して暮らせるまちづくり		
		基本事業	1	高齢者を支える体制づくり		
	その他の計画	個別計画	なし			
根拠法令・条例・要綱等	飯塚市認知症高齢者等個人賠償責任保険事業実施要綱					
事業開始年度	令和2年度	事業終了年度	継続	事務事業類型	ソフト事業	
実施手法	一部委託	補助金等の支給	なし	実施計画期間	令和2年度～令和5年度	

2. 事務事業の概要及び目的（決算成果説明書と運動）	
概要	認知症高齢者等が他人にケガを負わせたり、他人の財物を壊すことなどにより、法律上の損害賠償責任が発生した場合に備えて、認知症の人を被保険者とし、これを補償する保険に市が加入することで、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる街づくりを推進する。
対象	働きかける相手・もの 認知症等により、徘徊の恐れがある高齢者であり、かつ、徘徊SOSネットワーク事業登録者
手段	方法・働きかけ（活動指標） 認知症高齢者等個人賠償責任保険への加入及び事業の周知
意図	対象をどのようにしたいか（成果指標） 賠償が発生した場合に、認知症高齢者及びその家族の経済的損失を軽減

3. 活動指標（決算成果説明書と運動）					
指標名	単位	指標の説明（算式等）	前年度実績	本年度実績	次年度見込
周知回数	回	認知症に関する各種研修会における本事業の周知（脳元気教室、認サボ他）	-	9	12

4. 成果指標（決算成果説明書と運動）							
指標	単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込	
認知症高齢者等個人賠償責任保険新規加入者数	人	50	目標値	-	50	50	
説明	方向性	達成目標年度	実績	-	77		
	維持	毎年度	達成率	#VALUE!	154.00%		
指標	単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込	
徘徊SOSネットワーク事業の新規登録者数	人	50	目標値	-	50	50	
説明	方向性	達成目標年度	実績	-	64		
	維持	毎年度	達成率	#VALUE!	128.00%		
指標	単位	達成目標値		前年度実績	本年度実績	次年度見込	
			目標値				
説明	方向性	達成目標年度	実績				
			達成率	#DIV/0!	#DIV/0!		

5. 事務事業実施にかかるコスト（決算成果説明書と運動）														
予算科目・事業		会計	1	一般会計	款	3	民生費	項	1	社会福祉費	目	2	高齢者福祉費	
		大	5	高齢者福祉事業費	中	28	認知症高齢者等個人賠償責任保険事業費【政策】	他	-	事業				
投入人員 (当該事務事業に対して1年間に投入した人員)	区分(R1まで)	(R2以降)	前年度実績実績(千円)			本年度実績(千円)			増減理由(10%以上の場合)			次年度予算(千円)		
	正職員	正職員	0.00	人	0	0.03	人	237	令和2年度からの新規事業のため			0.00	人	0
	任期付職員(保育士)	任期付職員(保育士)	0.00	人	0	0.00	人	0				0.00	人	0
	任期付職員(CW・水質)	任期付職員(CW・水質)	0.00	人	0	0.00	人	0				0.00	人	0
	再任用フル	再任用フル	0.00	人	0	0.00	人	0				0.00	人	0
	再任用短	再任用短	0.00	人	0	0.00	人	0				0.00	人	0
	嘱託職員	1級フル	0.00	人	0	0.02	人	55				0.05	人	136
	臨時職員	1級パート	0.00	人	0	0.00	人	0				0.00	人	0
		2級パート		人		0.00	人	0				0.00	人	0
	人件費計(A)			0			292					136		
事業費			0			125						413		
直接事業費のうち			0			110			396					
の主な歳出内訳			0			15			17					
財源内訳			0			0			0					
国・県支出金			0			0			0					
市債			0			0			0					
一般財源			0			417			549					
その他()														

6. 事務事業の事後評価★

評価視点	評価項目	評価	評価の理由、または認識している課題を記載
妥当性 評価 (上位施策/ 成果)	市の関与の妥当性	妥当	高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画における家族支援の充実に関連して、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる街づくりを推進する必要がある。
	目的の妥当性	妥当	本市においても高齢化が急速に進む中で、在宅で生活続ける認知症高齢者は増加しており、認知症の人とその家族支援は重要であり、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる街づくりを推進する必要がある。
	対象(受益者)の妥当性	妥当	在宅で生活する認知症の方(日常生活自立度Ⅱa以上)を対象としており、妥当である。
効率性 評価 (活動量/ コスト)	コスト削減・コスト効率化	余地なし	現時点では現状以上にコスト削減・効率化を図る余地はない。
	負担割合の適正化	適正	先んじて本事業を実施する他の自治体における負担割合等を参考とし、標準的な取り扱いとして受益者負担を求めている。
	手段の最適性	最適	現時点では一般的な損害賠償保険加入と同様の取り扱いとしているため、実施手段としては最適であると考えている。
有効性 評価 (成果/ 活動量)	目標達成度	達成	新規加入者の目標値である50名を超え、目標を達成できた。
	上位施策への貢献度	貢献できた	本事業の実施により、既存事業である認知症高齢者等徘徊SOSネットワーク事業の登録者増にも繋がっており、他の認知症施策の促進にも寄与している。
	事業継続の有効性	ある	認知症の人が在宅での生活を継続するにあたって、認知症の人とその家族の支援する手立てとして、本事業の実施は重要であり、継続が必要である。

7. 前年度評価時の計画と実績

前年度評価★		前年度記載した改善策(課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策)★	
評価区分	方向性	次年度以降に予算(コスト)を必要とせず、直ちに実施できる改善策	-
なし	なし	次年度以降に予算(コスト)増を必要とし、中長期的に実施する改善策	

前年度改善策に対する実績 ★ ※上記の改善策に対して今年度実施できたこと、などを記入

-

8. 今年度評価における成果と課題(決算成果説明書と連動)★

【成果】 事業初年度であるため、特に事業の周知に努め、市報による全戸配布、関係機関への周知を行ったこともあり、新規保険加入者数77名と目標値の50名を上回った。また、本事業の実施による相乗効果として、既存事業である認知症高齢者等徘徊SOSネットワーク事業の登録者増(R1年度実績:新規22件、R2年度実績:新規64件)にも繋がっている。

【課題】 高齢化が急速に進む中で、在宅で生活続ける認知症高齢者は増加しているため、本事業の新規加入者数を増やすために、どのように周知していくかが課題である。

9. 今後の事業の方向性と改善策

成果の方向性	拡充	④	②	①	評価区分	事務事業の方向性		
	現状維持						③	⑤
	縮小							
休・廃止	⑦	⑦	⑦	⑦	二次評価	②コストは現状維持し、成果を拡充		
コスト投入の方向性								

次年度以降の改善策(課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策)★

コスト(人・予算等)を必要とせず、ただちに実施できる改善策	市報や認知症に関する各種研修会等における周知の他に、県認知症医療センターをはじめ、認知症施策の中核となる関係機関に働きかけることにより、本事業のさらなる周知を図る。
コスト(人・予算等)を必要とし、中長期的に実施する改善策	特になし

評価変更理由	担当課は記載しない。
--------	------------